

メルボルンに住み始めて1年たったころ、妊娠が分かりました。まずは、GP (General Practitioner) の略) といつかかりつけのお医者さんに行って、確認をしてもらいます。

オーストラリアではGPという一般開業医があり、内科、小児科、産婦人科などすべての分野の診察を行っています。風邪や軽いけがの時はGPに行つて処方せんをもらい、薬局で薬を買います。対処できない場合は、紹介状を書いてもらい専門医にかかります。専門医はいつも予約で混み数週間待つこともあり不便で

すが、GPはファミリードクターとして家族の健康管理を任せられる存在で、良いシステムです。

さて、GPで妊娠の確認をしてもらうと、喜びと同時に不安。まずは、出産する病院を決めなくてはならないとのこと。日本のような入院設備のある産婦人科医院はなく、産婦人科医が契約している病院の分娩室で出産します。

病院には公立病院と私立病院がありますが、公立病院で出産すれば、全額メデイケアがカバーするので費用はかかりません。メデイケアとは、全国民が加入し、

GP (ファミリードクター) の診療所



所得に応じて支払う保険。私たちは公立病院での出産を希望し、家から近くて評判の良い病院に決めました。

検診は公立病院の産科外来で。検診も出産費用もかからないのは良いのですが、検診の先生はいつも違うし、出産の時どの先生に

妊娠発覚

あたるのかも分からないのはちょっと不安でした。オーストラリアは多民族国家なので、病院の通訳サービスが充実しています。が、病院や時間が限られてしまつので、私は英語で頑張ることにしました。

出産が近づくと、病院の開催する「両親教室」に参加。内容は妊娠中の注意、楽な出産の方法(呼吸法など)、介助の仕方、赤ちゃんを迎える心構えなど。教室では、デイスカッションと実技が中心。講師が質問すると、グループごとに話し合つて意見を出します。若いカップル、中年のカップル、アジア系、中近東系といろいろな民族が集まるグループでしたが、皆が同じ境遇なのでなんとなく仲良くなりました。

さあ、出産まであと一息です！

(新山直子、メルボルン在住)

(日曜日に掲載)

喜びと不安が同時に